あいあい通信

AIAI-TSUSHIN
2015.5 Vol.59

Matsuda Hospital

◆院長の一言メッセージ

リニューアル

桜の季節が夢のように過ぎ去り、長雨にたたられていましたが、美しい花の季節が到来しました。気温が上がれば百花繚乱と新緑が一度に楽しめる幸せな世界が展開します。

そして、また今年も新年度がスタートしました。平成27年というのは今の天皇陛下の在位ですから、ずいぶん遠くへきたなあという感じがします。天皇陛下と皇后様が自分の意志で各地を巡幸なさっている姿をテレビで拝見し、尊敬しつつも、御年80歳を超えられてのお務めは大変だろうな、とつい同情してしまいます。

さて、当院では今、大きな改革のうねりが起こっています。それは**院内整備**と**新しい病院体制への躍進**です。

まずリニューアルの初年度として、この4月から外来施設の整備を行いました。従来の許可病床105床を78床に減床しました。詳しくは、3階病棟の55床と2階病棟の個室5床の計60床を稼働して、2階病棟の18床を休床とし、減床した2階病棟の27床を手狭になった外来施設の拡充に当てました。結果的に、患者さんの満足度を高める幅広い診療体制となりました。この計画は入院予約が窮屈ではありますが、機能的でスピーディーな診療ができるものと、目下、工夫をこらしています。

2階の病棟内にできた外来部門は、部屋のスペースに余裕があり、特に内視鏡検査や化学療法、外来手術の患者さんには、各人が静かな雰囲気でリクライニングチェアーやベッドを利用していただけるので、ゆったりくつろいで検査後や手術後の休息がとれます。

このようにリニューアルを徐々に行いながら、院内整備をして参ります。当初は不慣れな流れに戸惑われるかもしれませんが、少しずつ整備を進めて参りますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

もう一つの波は、当院で国の指針に沿って静かに行われている、薬の**「治験」「臨床研究」**です。結果が患者さんに還元され、治療の進歩に役立つことを信じて取り組んでおります。これも患者さんの社会貢献へのお心が必要です。

いずれも新しい病院の姿として必要な要素で、今後も継続的に行われるものです。同時に、常に革新的な医療技術や知識の習得と安全確保に努めて参ります。皆様方の温かいご支援と深いご理解を宜しくお願いいたします。

院長 松田 保秀

健康講座のおしらせ

第2回「おしりから考える健康づくり」

～大腸がんの発見から痔の最新治療～

院内備え付けの専用用紙にてお申し込み下さい。参加は無料です。

講師：松田聡医師

日時：平成27年7月12日(日曜日)
午前10:00～12:00

場所：松田病院会議室

便失禁の新たな治療法

便失禁に対して仙骨神経刺激療法（SNM：エス・エヌ・エム）という治療が、日本でも保険診療で行えるようになりました。

簡単に説明すると、**便の漏れにかかわる神経（仙骨神経）を電気的に刺激して、失禁症状を改善する治療**です。器械を体内に埋め込むので手術が必要です。

器械は電極と刺激器の2つの部分からなります。仙骨神経を刺激するのが電極です。刺激器から電流が発生し、電極に伝わります。この電流は調節することができます。刺激器はおしりのほっぺたの皮下に埋め込みます。心臓のペースメーカーをイメージしていただくとわかりやすいかもしれません。

海外では約20年の歴史があり、日本では臨床試験を経て昨年4月に日常診療でできるようになりました。

この治療には2週間のお試し期間があります。2週間は刺激器を埋め込まずに体外式の刺激器を用いて治療効果を判断します。刺激によって、どの程度漏れが改善するのかをみるわけです。効果のあった方には刺激器を埋め込みます。手術治療ではありますが、この治療に限っては試しに受けてみるという考え方も成り立ちます。

電気で刺激 最新療法

全国で500万人 便失禁

浜松の病院、県内初の実施

肛門の筋肉や神経の損傷などによって、本人の意思に反して便が漏れる便失禁。全国で五百万人が悩むこの症状を改善する新たな治療法「仙骨神経刺激療法（SNM）」を、大腸肛門病専門の松田病院（浜松市西区）が県内で初めて実施した。田中荘一医長㊧は「薬や従来の手術以外に治療の選択肢が広がり、患者にとっては光明」と期待する。（赤野嘉春）

「散歩していても漏れなくなった」。SNMの治療を受けた県西部の八十代の男性が三月中旬、外来診察で田中医長に報告した。男性は二年前、肛門の括約筋が緩んで腸が出る直腸脱の手術後、便失禁に悩まされてきた。服薬や食事などの生活指導を受けてきたが改善せず、一月にSNMの治療を受けた。「寒い所に長時間いると漏れることもあるから、おなかを冷やさないようにしている」という。

SNMは、骨盤中央の仙骨にある排便をコントロールする神経を電気で刺激する治療法だ。まず試験的に体外から仙骨の神経に電気刺激を送るリード線を挿入し、症状が改善するかを確認する。効果が見られれば心臓ペースメーカーのように常時刺激を発する小型装置（縦四十四ミリ、横五十一ミリ、厚さ七ミリ）を臀部に埋め込む。刺激の強弱は患者自身が体外式の装置で調整できる。

手術後六カ月の患者二十一人を対象とした国の臨床試験では、一週間の便もれの回数が平均十五回から三回に減るなど、便失禁の頻度が半分以下になった人が86%を占めた。昨年四月に保険適用されたが、なぜ効果があるのかは解明されていない。

便のゆるい状態が続く消化器の病気や、肛門が締まりにくくなって痔や脱腸になると便失禁につながるという。便意を感じなかったり、トイレまで我慢できずに漏れてしまったりと症状はさまざま。便失禁になると、恥ずかしさから家に閉じこもってしまうなど生活の質の低下を招くという。一方で、命に直接かかわらないこともあり、病気ではなく単なる老化現象の一種とみなされることもある。

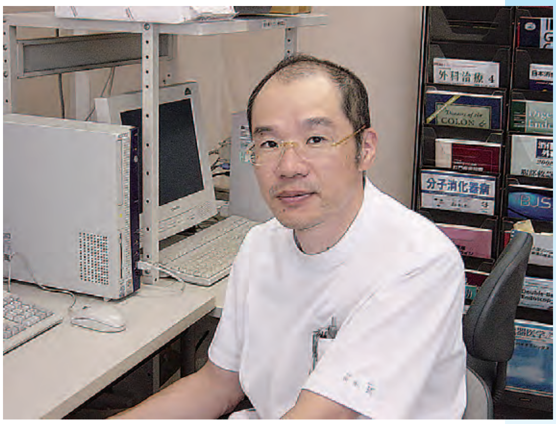
仙骨神経刺激療法を受けた男性患者から症状を聞く田中医長㊧＝浜松市西区入野町の松田病院で

従来の治療では、食事や生活習慣の改善、便性を整える薬物療法などで症状を抑える。改善しない場合は、損傷した肛門の筋肉を縫い縮める手術もあるという。

松田病院は、全国に十四施設しかない大腸肛門病専門病院の一つ。肛門の三大疾患（痔核、裂肛、痔瘻）の手術件数は年間千三百件余と県内最多。SNMを行うには、大腸肛門病学会の専門委員会が定めた研修が必要で、同病院では田中医長ら四人の医師が受講して資格を満たした。

SNMについて、田中医長は「治療の一つだが、あまり知られていない。患者さんだけでなく医療関係者にも知ってもらいたい」と話している。

中日新聞　平成27年3月29日（日）朝刊



外科部長
田中 荘一 *Soichi Tanaka*

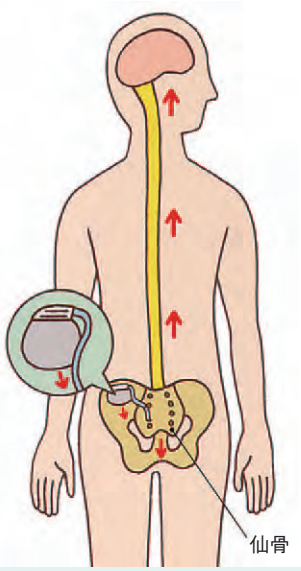
それにしても、便失禁も仙骨神経刺激療法も耳なれない言葉ですね

便失禁とは、「自分の意思に反して便がもれてしまい、社会的、衛生的に問題となる状況」と、定義されています。

つまり、出したくない時、出してはいけない状況で便やカスが出てしまうことです。トイレに間に合わない**（切迫性：せっぱくせい）**、

気づいた時には出たあとで、下着をよごしてしまった（**漏出性：ろうしゅつせい**）の2タイプがあります。漏らしてしまうと日常生活に支障をきたしてしまいますね。「社会的、衛生的に問題」という意味です。

便がもれたらおむつをかえて、きちんと始末をすれば社会的、衛生的に問題はありません。赤ん坊が便をおむつの中にしてしまうことは便失禁とは言いません。しかし、成人の場合はどうでしょうか？通常の社会活動を行っている方（あなた）に便もれがあると、他人に気づかれるのではないか、食事の支度ができない、仕事ができない、トイレの場所が常に気になる、出かけられない…。まともに社会生活を送ることができませんね。



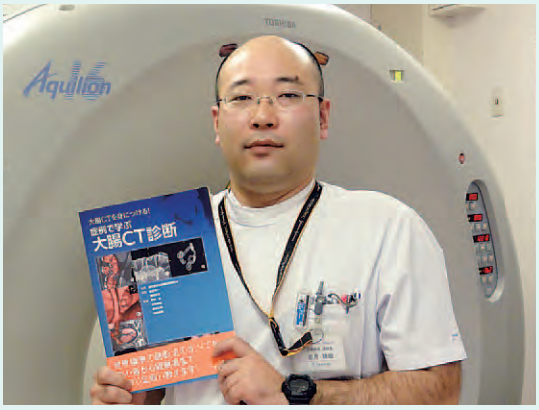
しかし、**便失禁は広く認知されていません。**当事者は漏れることを話したがりませんし、医療関係者には知識が少なく、命にかかわることでもないので関心がうすいのです。

松田病院では、肛門を中心に消化管を専門領域として診療を行っています。便失禁もまさに肛門が主役です。専門知識と専門的検査を用いて全職員が一丸となって便失禁の診療にあたっています。便失禁の治療にはＳＮＭのほかに、食事を含む生活習慣の見直し、薬物療法、理学療法、手術療法などがあり、病態に応じた治療を提案しています。

便失禁の診療には、医師、看護師、検査技師、薬剤師、管理栄養士、放射線技師、ＷＯＣナース（皮膚・排泄ケア認定看護師）などが関わっています。便失禁でお困りの方がいらっしゃいましたら、どうか気軽に病院スタッフに声をかけてください。

就任のごあいさつ

放射線部　**岩月建磨**



前任者定年退職に伴い、当院の放射線部 技師長に就任致しました岩月建磨です。当院も開院後約30年経過して世代交代が近づいており、放射線部にもその波が押し寄せてまいりました。

近年では大腸・肛門病専門病院として、大腸がんの精査や肛門疾患の画像診断を中心に行っておりますが、２００６年から開始した大腸ＣＴ検査も順調に検査数が増加し、今では県内一の症例数を誇っており、全国規模の臨床試験などにも積極的に参加しています。個人的には、昨年は所属する研究会から発刊した大腸ＣＴのテキスト本の執筆に携わることもできました。

私の知識や技量は未熟ではありますが、専門病院としての特徴を生かした画像検査が行えるスタッフを育て上げ、常に患者さんに満足頂けるような検査を提供できる環境（設備なども含め）を整備していきたいと考えております。

技師長が変わり、松田病院の放射線部は更に進化したと言って頂けるように努めてまいります。今後もよろしくお願い致します。

INFORMATION

新入職員紹介

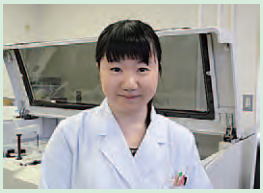
松田病院は4月より新たな体制でスタートしました。ここで新入職員をご紹介します。

◎病棟看護師……鈴木 圭美

確かな知識と技術で、患者様一人一人に合った看護を提供していけるよう、精一杯努力していきたいと思います。持ち前の元気と明るい笑顔で一生懸命頑張ります！

◎外来看護師……小野 由里子

外来の流れを理解することに日々奮闘しています。早く現場に慣れ、患者さんが安心して受診出来るような看護を提供していきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。



◎臨床検査技師……平野 恵里

現在は、少しずつですが機器の操作などを覚えています。検査結果は診断の一部となるものです。責任ある仕事ですので、1日も早く松田病院の力になれるようにしたいです。

◎看護部クラーク……刑部 亜美

4月より看護クラークとして働くことになりました、刑部亜美です。医療という分野で働くことが初めてなので、まだ右も左も分かりませんが、いつでも笑顔を心がけて頑張りますので、よろしくお願いします。

便失禁を訓練で改善
～バイオフィードバック療法～

皮膚・排泄ケア認定看護師　新屋 善朗

骨盤底筋は骨盤を底から支える筋肉で、肛門括約筋や肛門挙筋でなりたっています。この筋肉は排尿、排便の機能に影響を与えるため、筋肉が衰えてくると排尿障害（尿もれ）や排便障害（便もれ）の原因になります。骨盤底筋訓練はこの筋肉を鍛え、排泄障害の種々の症状を改善させる目的で行われます。

バイオフィードバック療法とは、骨盤底筋の活動をモニタリングしながら行う**骨盤底筋訓練の一つ**です。肛門に圧力計を留置しながら肛門を締めてもらいます。今回当院が導入した機器は締める力を圧力の変化としてモニターに表示し、同時に筋電図も表示されるため、患者さん自身が画面を見ながら自分の力の加減や筋肉の使い方が理解できるようになります。

バイオフィードバック療法は、排便障害の著明な改善が期待できるものではありません。しかしながら訓練を持続することにより筋肉の衰えを改善できるようになります。薬による副作用や手術に伴うリスクはまったくないので、気軽に訓練をうけてみてはいかがでしょうか。

編集後記

広報委員会　渡部真一

先日、待合室の床のワックス剥離術を行いました。すると長年の汚れがとれて土足で踏むのを躊躇するほどきれいになりました。職員も驚いていましたので、お気づきの方も多いのではないでしょうか。気分もリフレッシュされますね。

診療のご案内

●患者さんへお願い●　月１回、必ず保険証の提示をお願いいたします。

■ご来院の際には事前に予約をお取り下さい

◇ご予約はお電話でも承ります。◇受診当日のご予約も可能な限り承ります。

外来診療は予約の方を優先させていただきます。予約のない方はお待ちいただく時間が長くなることがあります。　※急患の方はこの限りではありません。

	受付時間	月	火	水	木	金	土
胃腸・肛門外科	8:30～11:30	●	●	●	●	●	
	8:30～12:00						●
	14:00～16:00	●	●	●	●	●	

その他の診療科	受付時間	月	火	水	木	金	土
IBD（炎症性腸疾患）外来	8:30～11:30				●		●
ヘルニア外来			●				●
排便機能外来					●		●
内科相談				●			
泌尿器科相談			●				
ストーマ外来				●	●	●	
女性専門外来	11:00～11:30					●	
	14:00～15:00	●					
血管外来	14:00～15:30				●		

Japan Council for Quality Health Care 日本医療機能評価機構

Matsuda Hospital

特定医療法人 社団　松愛会　**松田病院**

〒432-8061 浜松市西区入野町753番地

TEL.053-448-5121㈹ FAX.053-448-9753

JR＝浜松駅下車 タクシーで10分　高塚駅下車　タクシーで5分
バス＝浜松駅バスターミナル5番ポール（宇布見、山崎行）乗車
東彦尾または西郵便局下車　徒歩5分　駐車場 180台

E-mail　cra@matsuda-hp.or.jp

ホームページ　https://www.matsuda-hp.or.jp

（発行／松田病院広報委員会）